

コミュニティ福祉学部学位授与方針

学修成果

「学士(コミュニティ福祉学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

・学部理念・目的の習得

1. 「いのちの尊厳のために」(Vitae Dignitati)という本学部の基本理念を理解・説明することができ、実行におけてさまざまな活動に意欲的に取り組むことができる。
2. 福祉社会の実現をめざした「福祉コミュニティの形成」に、市民社会の側から、生活者の視点で取り組むという本学部の基本構想・意図が説明でき、その形成に参加・協働できる。

・知識・技術の習得

1. 福祉コミュニティ形成に貢献できる高度のマネジメント能力、個別ニーズに沿った援助、地域福祉計画や地域組織化および社会調査などの能力を身につける。
2. 導入教育として実施されている基礎演習を通して、スタディ・スキルを習得し、大学での主体的な学び方を身につける。
3. キャリア教育やインターンシップにおける企業系、行政系、NPO系、海外系など幅広い分野の就業体験・職場体験を通じて机上での学びを実践的に理解する。
4. 完成期に配置されている演習科目等を通して独自の研究能力を高め、学修成果を他者に発信することができる。
5. 全学共通科目と専攻分野の科目を総合的に学修することによって、国際感覚を具えた「専門性に立つ教養人」を育成する。

さらに全学共通科目により、

6. 言語 A の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能に基づいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。また、NEXUSプログラムにより入学した学生については、言語 B と合わせて大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
7. 言語 B の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多面的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。

8. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。

9. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践を通じた体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

・現場に立った実地学習の習熟

フィールド型学習（福祉学科：ソーシャルワーク実習、キャリア形成演習、コミュニティ政策学科：コミュニティ学演習、政策学演習、社会調査実習、そして各学科で履修できるインターンシップ）等を通して、現場に立った体験的な学習能力を身につける。

・実践能力と研究能力の統合

人間と社会に関わる総合学であるコミュニティ福祉学において、フィールドに赴いて人々の抱える苦難や困難を想像・感受する力を養い、それらの苦難や困難を克服・解決する上での指針となる理論を習得することができる。

【コミュニティ政策学科】

1. 地域社会の様々な問題や課題を当事者の視点から考え、実証的な調査に基づき分析する力を養成する。
2. コミュニティ学演習、政策学演習、社会調査実習、インターンシップ等のフィールド型学習プログラムにより意図的・計画的に現状に変化をもたらす手段や方策を構想・提案・実践する能力を身につける。
3. 特にコミュニティ学専修では、「コミュニティ基盤領域」「コミュニティ実践領域」の教育研究領域の知識を踏まえ、各自の専門的課題を探究できる。
4. 特に政策学専修では、「市民社会領域」「ガバナンス領域」の教育研究領域の知識を踏まえ、各自の専門的課題を探究できる。
5. グローバルな視野から社会問題を分析する力を養う。

【福祉学科】

1. 専門的対人援助職であるソーシャルワーカーに求められる理論・制度・サービスの理解、ならびに援助の方法・技術を体系的に修得し、演習・実習を通してそれらを統合的に活用できる力を身につける。
2. 福祉実習関連科目での学びを基盤として、現場実習や臨床の場において理論と実践を結び付け、課題解決に取り組む実践能力を養う。
3. 社会福祉学関連科目や国家試験指定科目、専門ゼミナール、キャリア形成演習などの学びを通して、卒業研究の執筆により学修成果を深化させるとともに、社会福祉士国家試験受験資格の取得を目指す。